

12月1日は世界エイズデー

令和7年度世界エイズデーキャンペーン

テーマ「U=U 検出されない＝性感染しない」

令和7年度は、岐阜市内の中学、大学、専門学校計7校8団体がレッドリボンフラッグ作成に参加されました。それぞれの思いが込められたフラッグとメッセージをご紹介します。

掲示期間：令和7年11月26日（水）～12月2日（火）

掲示場所：みんなの森 ぎふメディアコスモス ドキドキテラス



 **東海学院大学
管理栄養学科 臨床検査①**

 **東海学院大学
管理栄養学科 臨床検査②**

フラッグに込めたメッセージ

臨床検査技師を志す者として、地域社会にエイズについての正しい理解が広がるようお願いを込めて制作しました。

誰もが目にした瞬間にメッセージを受け取れるよう、あえて簡潔で伝わりやすいデザインに仕上げ、年齢・性別問わず幅広い層への浸透を目指しました。

フラッグに込めたメッセージ

このフラッグには、エイズに対する誤解や偏見を断ち切り、正しい知識を広めたいという強い願いを込めました。人々の目を引く大型のレッドリボンは、沈黙や無関心に対する挑戦であり、理解と連帯の象徴です。

この一枚が、誰かの意識を変える契機となり、差別のない社会への一歩となることを、心から願っています。「無知は偏見を生み、偏見は人を傷つける。だからこそ、知ることから始めたい。」



岐阜保健大学 看護学部

フラッグに込めたメッセージ

私たちは、このフラッグに「HIV＝怖い病気」という誤ったイメージを変えたいという思いを込めて作りました。中心に書かれた「U=U」は、Undetectable = Untransmittable（検出されない＝性感染しない）という意味で、HIVに感染していても適切な治療を受けてウイルス量が検出されない状態になれば、他の人に性感染させることはないという事実を伝えています。

レッドリボンはHIVやエイズへの理解と支援の象徴であり、差別や偏見をなくしたいという願いを表しています。王冠は「幸福、美、名声」の意味を持ち、HIVの有無に関係無く誰もが輝いて生きる価値があることを示しています。ダイヤのマークには「絆」という意味があり、人々との繋がりの大切さを表現しています。描かれているキャラクターたちは、HIVへの理解が広がれば恐れではなく優しさと笑顔で関わる事が出来るという希望を示しています。

このフラッグを通して伝えたいことは、「知ることが偏見をなくす第一歩」であるということです。HIVは「理解すれば防げる、そして共に生きられる」ということを共通の理解にすることが大切だと思います。誰もが安心して自分らしく生きられる社会のために正しい知識と優しく温かい心を広げていきたいと思っています。



岐阜聖徳学園大学 附属中学校

フラッグに込めたメッセージ

「あなたは一生完治できない病気にかかりました」

そんなことをいきなり言われました。あなたはそれに耐えられますか？

・今まで仲の良かった友達から自分だけでなく、家族まで元からいなかったような扱いを受ける。

・世界中どこにも居場所がなくなってしまう。

・人生を勝手に制限される。

そんなことがあって良いのでしょうか？ ですが、実際にそれを受けている人がいるのです。それが「エイズに感染した人たち」です。

「自分には関係ない」と思っている人もいるのではないのでしょうか？

「エイズ」は決して人ごとではありません。エイズは誰にでも感染する可能性があるのです。だからこそ、エイズに対する取り組みを積極的に行っていくことは、とても大切なことです。

「エイズは誰にでも感染する可能性がある」

それを知ることが、エイズに対する取り組みです。

「エイズ+取り組み＝難しい・私には出来ない」と考える人は、その考えは捨ててください。

このようにエイズに対し、正しい知識を身につけるだけでも、差別をなくし、エイズに感染した人たちが生きやすい世界をつくる事ができるのです。

つまり、どんなに小さな事でも、私たちができることをたくさんの人たちが実践することが大切なのだと思います。



済美高等学校

フラッグに込めたメッセージ

ハートに使われているレッドリボンには、エイズについて正しい知識を持ち、「偏見を持たない」「差別をしない」という全校生徒の思いがこもっています。みんなの思いがこもった小さなリボンが大きな勇気になりますようにと、全員分のリボンを使い1つのハートにしました。放課後の時間を使い、保健委員と勇志の生徒が心を込めて仕上げました。



岐阜大学 ピアカウンセリング同好会

フラッグに込めたメッセージ

正しい知識を持つことでエイズに感染する人を減らすことを目的に、エイズデーのテーマが分かりやすい構成でフラッグを作成した。また、差別や偏見をなくし、平等に暮らしていこうという様子を、手と手を取り合い、リボンでつながった人々の様子を表した。



岐阜市立女子短期大学 美術部

フラッグに込めたメッセージ

岐阜市立女子短期大学美術部の部員 3 人で力を合わせて制作しました。サイズの大きい作品になるので、文字を正確に書いたり、広い面を塗るのに苦労しました。中央にリボンで表現したハートのように、この世界が差別や偏見の無い暖かい世界になることを願っています。



岐阜市立看護専門学校

フラッグに込めたメッセージ

エイズ感染者への偏見を無くすためには、まずエイズについて知る機会が必要であると考えました。この取り組みを通して少しでも関心を寄せてもらい少しずつ偏見を無くしていきたいと思い今回作品に参加させていただきました。